



【感染症だより】

この冬は、インフルエンザの流行が例年より遅く始まり、1月後半からインフルエンザ流行期となりました。例年ですと、初期にA型が流行して晩期にBが流行しますが、福生地区ではAとB両方流行っています。A型でも、AH3香港型、2009年に流行したAH1pdm09の両方が流行しています。また、全国におたふくかぜも流行していますので、未罹患の方や予防接種を2回受けていない方は、要注意です。ただし、おたふくかぜは年齢が低いと「不顕性感染（ふけんせいかんせん）」といってウイルスが体に入ってきててもまったく症状が出ず、気づかないうちに罹患していることがあります。今後おたふくかぜのワクチン接種を迷っている方には、抗体検査を受けることで接種が不要になることもあります。「そんな時間はないです」という方は、抗体検査をせずにワクチンを接種しても構いません。

順位	感染症	患者数
1	胃腸炎	51
2	インフルエンザ B	38
3	インフルエンザ A	23
4	おたふくかぜ	8
5	溶連菌	6
6	RSウイルス	3
6	リンゴ病	3
8	水ぼうそう	2

表：1月しみず小児科・内科クリニックで検出された流行性の感染症

★インフルエンザではこんな症状に注意しましょう★

- 手足を突っ張る、がくがくする、目が上を向く、白目をむく、けいれんの症状がある
  - ぼんやりして視線が合わない、呼びかけに答えない、眠ってばかりいるなど意識障害の症状がある
  - 意味不明なことを言う、走り回るなど、いつもと違う異常な言動がある
  - 顔色が悪い（土気色、青白い）唇が紫色をしている（チアノーゼ）
  - 呼吸が速く（1分間に60回以上）息苦しそうにしている
  - ゼーゼーする、肩で呼吸する、全身を使って呼吸をする呼吸困難症状がある
  - 「呼吸が苦しい」「胸が痛い」と訴える
  - 水分が摂れず、半日以上おしっこが出ていない
  - 嘔吐や下痢が頻回にみられる
  - 元気が無く、ぐったりしている
- 以上のような症状があるときは、もう一度受診しましょう（日本小児科学会より）

